学校番号	405

令和２年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「新家庭総合　パートナーシップでつくる未来」　（実教出版）						
副教材等	ニューライブラリー家庭科　資料＋成分表 2019　（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇家庭生活に関心をもち、積極的に取り組みましょう

・生活の様々な現象や課題をワークショップや演習等を通して考え、理解を深め知識を身に付けます。友だちの考えを知り、多様な考え方を学び、自分の考えをもちましょう。

・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身に付けます。

・学んだことを自分の生活の問題として捉え、よりよい生活をめざします。

２　学習の到達目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人の一生、生活全般について関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身につけている。	人の一生、生活全般について見直し、生活課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めている。	人の一生、生活全般に関する基礎的・基本的な技能を身につけている。	人の一生、生活全般に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
評価方法	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画、製作計画、実習記録表 レポート、発表 自己評価　等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画、製作計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価･相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 写真、製作品 観察記録表 レポート、発表 定期考査、実技テストの結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画、製作計画、実習記録表 観察記録表 レポート、発表 定期考査の結果等
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	衣生活をつくる	・人と衣服のかかわり ・衣服の機能 ・衣服の素材を見てみよう ・衣生活の管理 ・衣生活と資源・環境 ・すべての人が快適な衣生活を ・衣服をつくろう	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ 	a:衣服の材料や選択、手入れ等に興味を持ち、衣生活を自分のこととして取り組む。被服実習に意欲的に取り組む態度が見られる。 b:単に衣服を着るということではなく、材料の違いや環境への影響等を考えた上で衣生活全体を考える力を持つ。被服実習で手順よく作品を完成させようとする。 c:衣服の選択や手入れに関心をもち、実生活に活用しようとする。生地から特徴に応じた用途を考えて工夫する。被服実習で自分らしい表現を作品に表すことができる。 d:衣生活についての知識を深め、衣服の材料の特徴を理解できる。衣服の選択と手入れの方法を具体的に理解している。衣生活と環境の問題を指摘して基礎知識を深める。	授業観察 ワークシート 製作計画 実習レポート 製作物 定期考査
2学期	食生活をつくる	・人と食物のかかわり ・私たちの食生活 ・栄養と食品のかかわり ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理 ・これからの食生活を考える	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a:健康によい食習慣について関心をもち、栄養素について考えて実際の生活に活かす。安全な食生活を実施し、調理技術の習得、食の安全について関心をもつ。 b:自身の食生活を見直し、栄養素の過不足がもたらす問題点について考える。それらの知識を活かして食品を選択し、能率や公立を取り入れた献立の実習に取り組み、これらから自身の食生活を的確に診断する。 c:自身の食生活診断ができ、問題点を指摘できる。知識を活かした食品の選択をし、能率や効率を考えた調理実習ができる。栄養を考えたバランスのよい食事をつくることができる。 d:５大栄養素とその食品について理解する食品に関する知識を学び、安心した食生活を送れるようになる。食文化や、内外の食糧事情について知る。	授業観察 ワークシート 写真 実習計画 実習レポート 実技テスト 定期考査

3学期	消費者として自立する	・消費行動と意思決定 ・社会の変化と消費生活 ・消費者の権利と責任 ・持続可能な社会循環 ・経済のしくみを知る ・ライフステージと経済計画	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a:消費のあり方に関心をもち、お金の動きを家計から知り、生活に役立てる。お金に流されない消費を考え、生活に役立てる。消費者問題に関心をもち、自分たちの生活に役立てる。 b:家計の消費が国民経済にどのように影響しているかを考え、家計診断から家計の改善を考えられる。消費生活の問題点を指摘し、消費者の権利と責任を明確に判断する。 c:家計の管理ができる。消費が豊かな生活となるよう指摘し、豊かな生活を送るための知識を生活に役立て、消費者の自立に求められるものを理解した上で行動できる。 d:家計の内容を理解し、家庭の経済が国民経済を動かしていることを知る。消費者に求められていることを理解し、消費者の権利と責任を考える。	授業観察 ワークシート レポート、発表 自己評価 他者評価 相互評価等 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。